

『もりおかの短歌』春の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

ゆきど なが もぐ みずとり
雪解けの流れに潜る水鳥の

かおだ ゆくえ
顔出す行方を

きみ ゆびさ
君と指差す

盛岡市 青木 久美

はる かぜふ にぎ まちなか
春の風吹いて賑わう街中に

しよくよくみ
食欲満たす

もりおか いち
盛岡よ市

盛岡市 河野 康夫

あでやかに

べにシダレザクラ さ ほこ
咲き誇る

よない さと はる
米内の里の春はたけなわ

盛岡市 小林 貴史

いしわり さくら つぼみ
石割の桜の蕾

み
身をかがめ

いま いま さ とき ま
今か今かと咲く時を待つ

神奈川県横浜市 西前 敦子

て つた
手に伝う

なんぶ てつき ぬく
南部鉄器の温もりよ

う つ ころいろ あ
受け継ぐ心色褪せずして

盛岡市 齋藤 まゆか

あまぐも やま お く あさ
雨雲が山から降りて来る朝を

しず ひ
静かに冷える

オルガンの鍵 けん

宮城県仙台市 鈴木 そよか

ふるさと こ みこ だ あさいち
古里を恋ひつつ神子田朝市の

あじ
ひつつみの味

まね つく
真似て作りぬ

青森県青森市 鈴木 操

ピーナツと

ごま ふうみ か もと

胡麻の風味を買ひ求む

なんぶせんべいかぜひか たび

南部煎餅風光る旅

神奈川県藤沢市 武 正義

われ に かお さが ごひゃくらかん

吾に似し顔を探して五百羅漢

まわ かこ

回れば過去から

はる かぜふ

春の風吹く

盛岡市 野坂 次郎

しぶたみ きたかみかし

渋民の北上河岸を

さまよ たくぼくかひ

彷徨へば啄木歌碑に

せきれいあそ

鵲鴿遊ぶ

東京都江東区 藤村 清彦

『もりおかの短歌』春の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞

(応募時、中学生以下に限る)

該当なし

【講評】

今回のもりおかの短歌「春の部」には一般部門、ジュニア部門合わせて一二五首の作品が寄せられました。春にリニユール開館した石川啄木記念館や新しくできた道の駅「たみつと」を題材にした作品が多かったです。また、盛岡の春を告げる石割桜の開花、よ市の開幕などをいきいきと詠んだ作品が印象的でした。盛岡に住む人も旅の人も春の訪れを喜び一首にしたいという気持ちが伝わってきました。来年もまた自分だけの盛岡を詠んで作品を送ってください。

令和七年六月選 春の部

投稿数 百二十五 首

選者 吉田 史子